

化学療法指示書

登録番号 77

CBDCA + PEM 3週毎

ID:					
氏名				指示者	
身長	cm	体重	kg	体表面積	m ²

・非小細胞肺癌
・悪性胸膜中皮腫

血清Cr: mg/dl Ccr: ml/min(Cockcroft-Gault)

CBDCA (carboplatin、カルボプラチン) AUC 5 (or 6) × (Ccr + 25) = ()mg/body day1

PEM (pemetrexed、ペメトレキセド) 500mg/m² = ()mg/body day1

* 高齢者はCBDCA AUC=5が推奨される。

<ビタミンB12投与>

ペメトレキセド初回投与の1週間以上前にビタミンB12 1mg (メチコバル注(500 μg) 2A) 筋注
その後ペメトレキセド最終投与日から22日目まで9週毎に筋注

<葉酸投与>

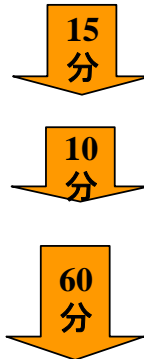
ペメトレキセド初回投与の1週間以上前より葉酸1日1回0.5mg (パンビタン末1g分1朝食後) を
連日経口投与。その後ペメトレキセド最終投与日から22日目まで連日経口投与。

<嘔吐予防>

Day2、Day3 デカドロン(4mg)2錠 朝食後内服

コース目 月 日 (day 1)

生理食塩液100ml ルート確保・フラッシュ用	
パロノセトロン注(0.75mg)	1 袋
デキサート(6.6mg)	1 A
生理食塩液100 mL	
ペメトレキセド ()mg	
生理食塩液250 ml	1 V
カルボプラチン ()mg	



◆ 嘔気時: (開始後21日目まで適宜投与)

1) グラニセトロン注(3mg/50mL) 1袋 + エリーテン(10 mg) 1A 点滴静注(30分)
(1日に2回まで)

2) 生食100 mL + デキサート(6.6mg) 1A + エリーテン(10 mg) 1A 点滴静注(60分)
(1日に1回まで)

◆投与開始基準

PS:0-1
好中球 $\geq 1500 / \mu\text{L}$
Hb $\geq 9.0 \text{ g/dl}$
Plt $\geq 100000 / \mu\text{L}$
T. bil ≤ 1.8
AST ≤ 114
ALT ≤ 132
ALP ≤ 1014
クレアチン・クリアランス $\geq 45\text{ml/min}$ (Cockcroft-Gault 式)

◆化学療法の休止もしくは投与量変更の基準

(1)血液毒性に対する調節

血小板数及び好中球数の最低値	前回用量に対する割合 (両薬剤とも)
最低血小板数 $\geq 50000 / \mu\text{L}$ 及び最低好中球数 $\geq 500 / \mu\text{L}$	100%
最低血小板数 $\geq 50000 / \mu\text{L}$ 及び最低好中球数 $< 500 / \mu\text{L}$	75%
最低好中球数に関わらず最低血小板数 $< 50000 / \mu\text{L}$	75%
最低好中球数に関わらず最低血小板数 $< 50000 / \mu\text{L}$ (出血を伴う)	50%
最低血小板数に関わらず最低好中球数 $< 1000 / \mu\text{L} + 38.5^\circ\text{C}$ の発熱	75%
2回の減量後のCTCグレード3又は4の血小板減少及び好中球減少の再発	中止

(2)粘膜炎に対する調節

CTCグレード	前回用量に対する割合	
	アリムタ	カルボプラチン
0～2	100%	100%
3～4	50%	100%
2回減量後のCTCグレード3又は4の粘膜炎の再発	中止	中止

(3)下痢又は他の非血液毒性に対する用量調節

入院を要する下痢の場合、症状が消失するまで投与を行わず、アリムタによる治療は用量を75%に減量して再開し、カルボプラチンは同じ用量を維持すること。他のCTCグレード3以上の非血液毒性には、治療開始以前の患者のベースライン値と同等又はそれ以下に回復するまで休薬する。減量が必要と主治医が判断した場合、用量を75%に減量して治療を再開する。CTCグレード3又は4のトランスアミラーゼ上昇には、薬剤の減量ではなく休薬する。

(4)血清クレアチニン・クリアランス値に対する用量調節

各コース開始時、血清クレアチニン・クリアランス値が 45ml/分 以上あることを確認する。 45ml/分 未満の場合には、42日を上限に回復するまで休薬し、42日以内に回復しない場合には投薬治療を中止する。